

国と東電が再稼働への動きを加速 力合わせ再稼働ストップへ!

◆規制委 柏崎刈羽原発7号機的全審査「合格」と認定

◆東電 地元同意前でも、核燃料 来春の装填を検討

東電と国は福島事故に真摯に学べ

原子力規制委員会は9月23日、再稼働に必要な三つの審査を事実上全て「合格」と認定し、今後事務手続きを経て年内には「正式合格」となる見通しだとした。

しかし、規制基準そのものの問題点や東電の適格性の問題、避難対策が審査の対象外であること等々、「合格」が安全性を担保するものではなくありません。県の「三つの検証」作業は継続中であり、多くの問題点や課題が指摘されています。異次元の危険性を持つ原発の再稼働は認められません。

再選された磯田市長は公約の具現化を

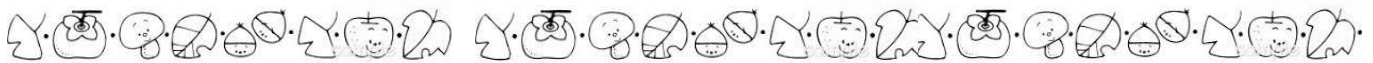
「市民の不安が解消されない限り再稼働すべきではない」と訴えた磯田達伸さんが再選されました。具体策の実現を求めていきましょう。

立地自治体柏崎市の市長選で審判を!

再稼働容認の桜井雅浩現市長は、「原発が一番の問題ではない」とし、東電が地元同意前の来春にも燃料装填するとしていることも問題視していません。

一方、「再稼働は認めない」と立候補表明した近藤正道さんは、原発再稼働問題を最優先課題に掲げます。

(投票日は11月15日です。)



福島原発生業訴訟 仙台高裁判決 国と東電の責任を認め、画期的!

福島県と隣県の宮城県、栃木県、茨城県などの住民約3,600人が、東電と国に損害賠償と放射線量の低減による原状回復を求めた「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟の控訴審判決が9月30日に仙台高裁でありました。一審の福島地裁判決に続き、国と東電の賠償責任を認めました。一審は国の責任が東電の半分にとどまるとしましたが、高裁は「東電を規制する立場の国が役割を果たさなかった」と厳しく指摘し「東電と同等に原告の損害全体に責任を負うべきだ」としました。

11月のアオーレ前街宣11日行動は
11月11日(水) 16時から
再稼働NO!の思いを広げよう

原発ゼロ長岡市民ネット結成9周年

原発再稼働を考える市民のつどい

お誘いあわせてご参加を!

◇十一月五日(木)午後2時

◇ハイブ長岡1F大ホール

※会場は通常1,500人収容の広さで、換気式エアコン設置。三密対策、検温、消毒等実施。

「蓮池さんの話が聞きたい」「緊迫した状況の中で開かれるつどいの意味は大きい」等々の期待の声。アオーレ前でチラシを手にした方から後日「30枚ください」との嬉しい連絡も。